

今わたしたちが、子どもたちにと できること



子どもは社会の鏡

——大人社会は、今——

わたしたちの社会は、少子高齢社会へと向かい、コンピュータによる情報化が進み、経済や環境などの分野では、地球全体で取り組むべき課題も多くなっています。価値観の多様化と言われながらも、人々は物質的な豊かさを求め続け、一方で、リストラや能力主義など雇用・労働環境も変わりつつあります。しかし、大人たちは、こうした変化の対応に足踏みし、新しい社会の目標を描けないまま21

子どもは、社会の宝。しかし、子どもの人生はその子のものでもありません。子どもたちには、住み良い社会で、幸せな時間を送らせてあげたい。同時に、自分で自分の道を切り開いていけるように、たくましく育てたい。その準備をするのは、すべての大人の責務でもあるでしょう。「青少年のための留萌市プラン」(平成14年度～18年度)は、家庭、学校、地域社会、そして行政が、青少年を健やかに育てていくための基本的な指針です。このプランが、市民共通の意識となり、子どもたちを育む、行動の輪が広がっていくことを願っています。

世紀を迎えました。このような環境の中で、子どもたちを取り巻く世界もめまぐるしく変わり、家庭の教育力は低下し、人間関係や地域社会とのつながりは薄まっています。このような背景で、凶悪な少年犯罪や児童虐待などが起こり、また学校5日制も始まるなど、青少年をめぐる社会全体の環境を整えることが必要になってきています。

進む家庭の孤立化

——家庭は、今——

■親の不安と自信喪失
親たちが子育てに不安を持ち、自信を失っているため、食事やしつけがおろそかになり、基本的な倫理観を身につけられずに育つ子どもが増えています。

「子どもは社会を写す鏡」と言われるように、青少年問題は、大人社会の反映であり、大人が自らの生き方を問われていることでもあるのです。

■仲間を作れない子どもたち
子ども同士の付き合いが少なくなり、遊びの中から、友だちとの付き合い方や思いやりを学ぶことが難しくなっています。団体行動をいやがり、独りや少数の行動を好む子どもが増え、青少年活動も低下しています。

家庭にできること

■親としての意識改革

親の過保護・過干渉、一方で、子育て放棄、虐待などは、子どもが健全な自立心や社会性を身につけることを妨げています。子どもに対する親の評価も学力中心で、家の手伝いや地域への参加が少なくなり、自己中心的で、他者への関心の薄い子どもが増えています。

■親子としての意識改革
親として、子育ての責任を自覚し、家庭の役割を見直すことが必要です。我が子の長所や個性を生かし、興味や適性に合った生き方を、子どもといっしょに考えましょう。

■優しさと厳しさ

■ひとりでも過ごす子どもたち
家庭で、家族がいっしょに過ごす時間が少なくなり、子どももTVゲームなど独り遊びに向かいがちで、家族の団らんや友だちとの遊びの中から、社会性を身につけることが難しくなっています。

■優しさと厳しさ
優しさと厳しさのバランスをとり、子どもの話に耳を傾け、人格を尊重し、善悪を区別できる心を育てなければなりません。あいさつやルールを守るなど、親が率先することも必要です。

■経験と視野の広がり

家族で、地域活動やボランティア活動に参加し、子どもにさまざまな生活体験をさせましょう。祖父母との交流や地域の伝

迷っている社会

——地域社会は、今——

■無責任な大人たち
社会全体にルールを守る意識が低くなり、大人が手本となれないため、子どもたちが、目標とする大人像を描けず、夢を抱けなくなっています。人物より学歴優先の傾向が、子どもの正しい価値観の形成を妨げています。

過度な性描写や暴力シーンや危険ながん具など、利益優先の

地域社会にできること

■時代にあったコミュニケーション
地域全体で青少年を育てることとを考えた、時代にあった地域コミュニケーションづくり、学校・公民館・児童館など地域の施設と人材を有効に活用する、地域のネットワークづくりが必要です。

■大人の責任

青少年が地域活動を通じて、一人の人間として成長できるような役割を与えましょう。また、地域で青少年の活動を指導・助言する人材を育て、その活用を図りましょう。地域の伝統や文化の伝承に、青少年の参加を促し、異なる年

青少年の特徴

■頼もしいこと

- ・ハイテク機械などをなんなく受け入れる
- ・なにごとにも物怖じしない
- ・外国に関心が高く、異文化の受け入れに抵抗がない

■やや気がかりなこと

- ・自分の気に入ったことには努力を惜しまないが、そうでないことには淡泊
- ・言われたことはこなすが、それ以上は関与しない
- ・わずらわしい人間関係を敬遠する

■心配なこと

- ・ルールを守る意識が薄く、注意されても素直に聞かない
- ・自己中心的で、善悪の判断で自分の欲望や衝動を抑えることが苦手
- ・物質的な豊かさに慣れ、向上心や忍耐力が不足

青少年と向き合おう!

□青少年は変化する可能性を秘めている

青少年は、生活環境の影響で、様々な問題を抱えています。環境を整えば、それらの問題は解決することができるという、柔軟性を持っています。

□青少年は成長を望んでいる

青少年は、環境を変えるを試み、手ごたえに自信を持ちます。困難な課題を乗り越える経験は、自分の成長の喜びとなり、次へのステップとなります。

□青少年は悩み、もがく

青少年は、成長とともに、自分自身をいろいろな方向からとらえることができます。しかし、自己の未来像を見つけ出せずに悩みます。自分の可能性、生き方を求め、さまざまな試みをする(自己の確立)過程を大切に。

□だれもが存在したい

人は、家庭や学校、社会の一員として、かけがえない存在であるという「自己存在感」を確認したがるものです。自己存在感を見つけた人は、子どもであれ大人であれ、生き生きしているはず。